

福島第一原子力発電所 固体廃棄物貯蔵庫の状況

調査概要

1 . 目的

- ・ 放射性固体廃棄物の保管状況と建物の確認

2 . 調査対象

- ・ 固体廃棄物（ドラム缶）を保管している第5棟～第8棟

3 . 実施内容

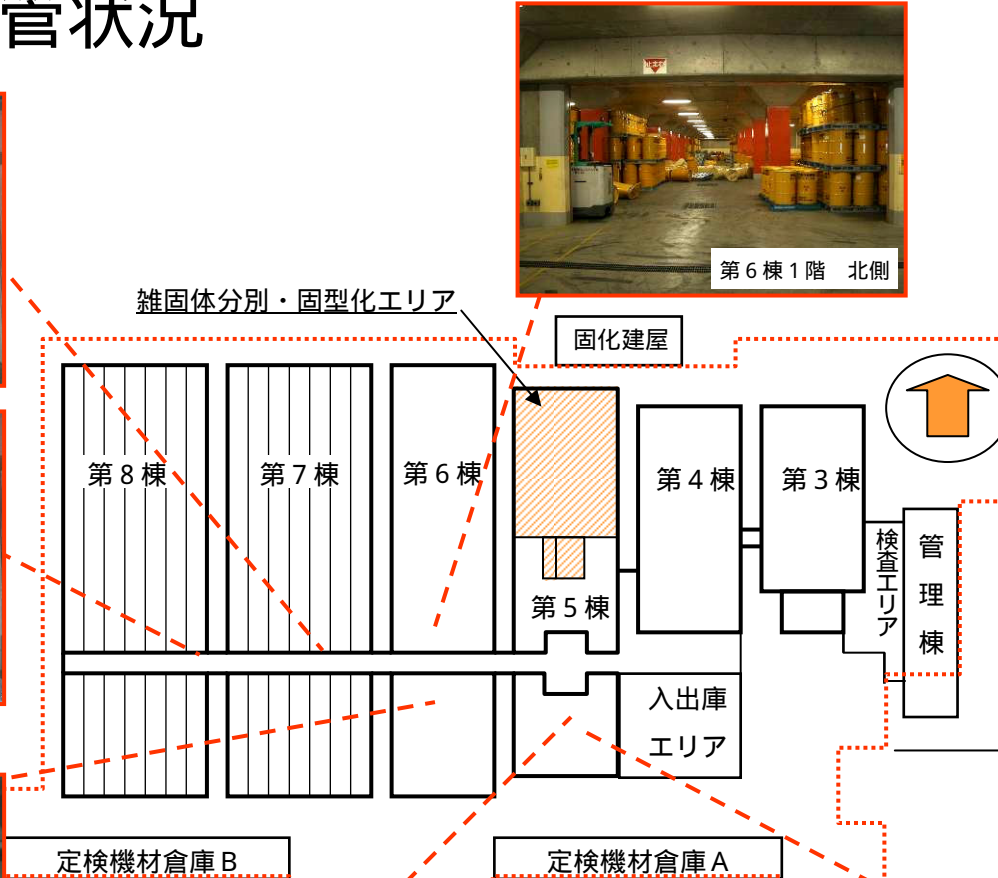
- ・ 各棟の内部を目視確認
- ・ 各棟の周囲、内部の線量率測定、内部の空気中の放射性物質濃度を測定

固体廃棄物貯蔵庫 全体配置図



調査結果 (第5～8棟：1階)

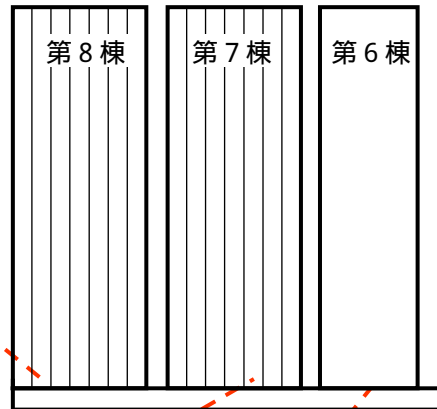
■ 各棟の保管状況



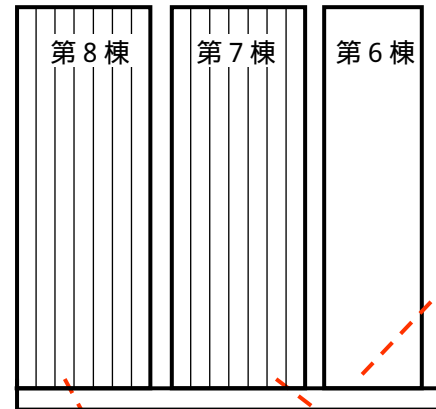
調査結果（第6～8棟：地下1、地下2階）

■各棟の保管状況

地下1階

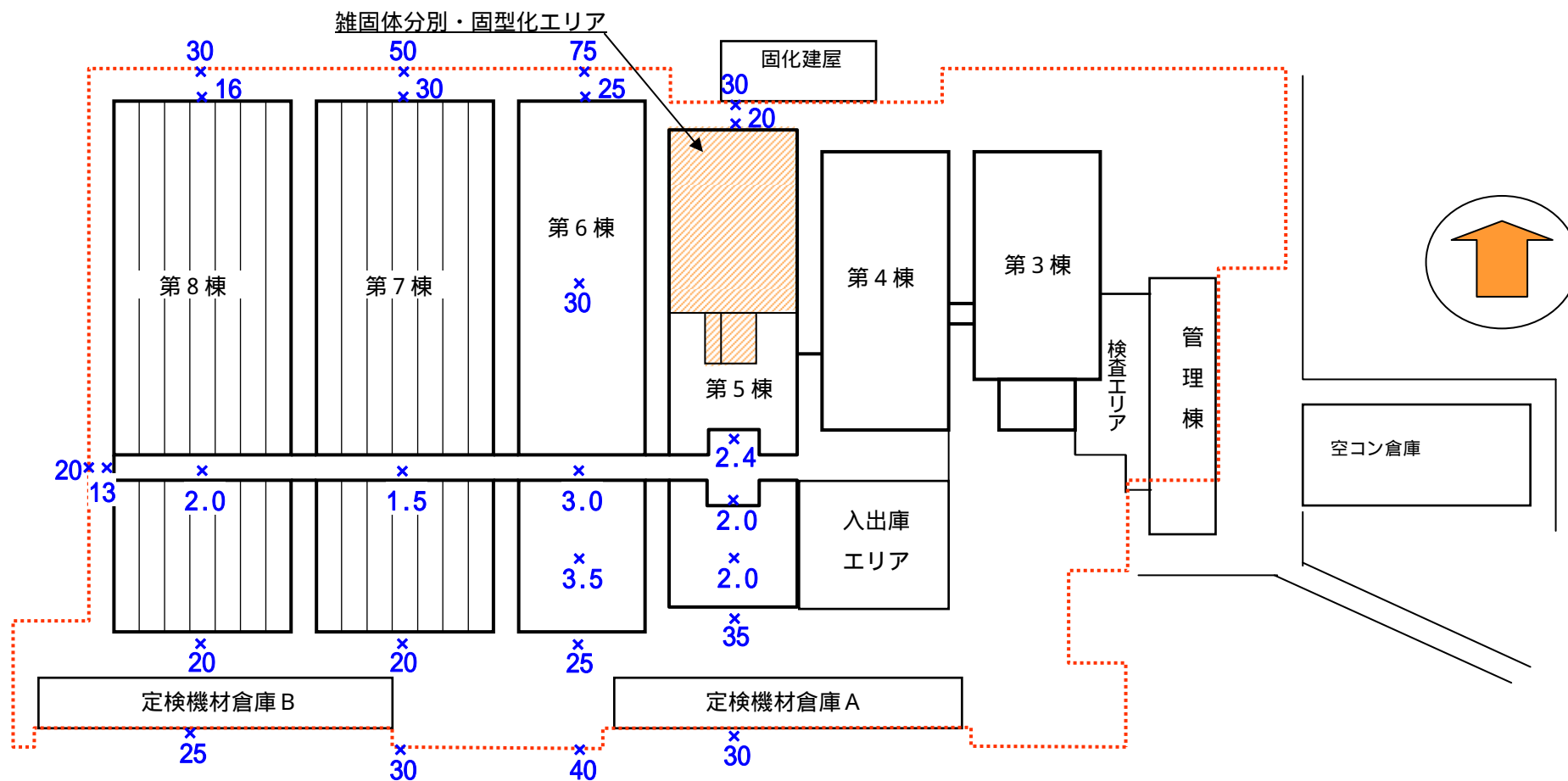


地下2階



調査結果 (第5～8棟：1階 線量当量率)

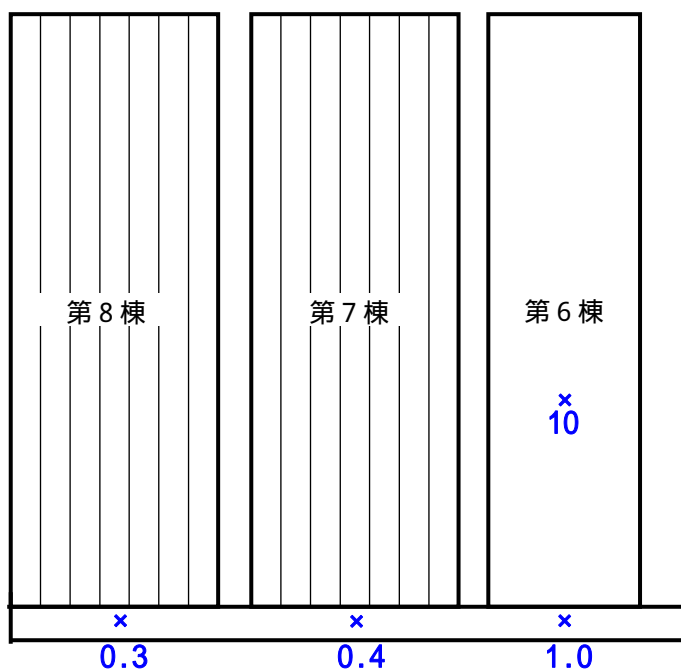
単位：μSv/h



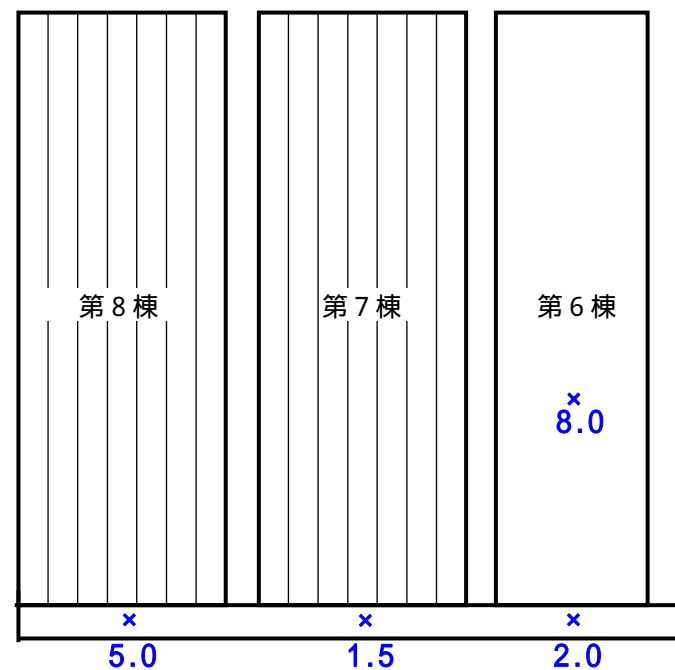
調査結果（第6～8棟：地下1、2階 線量当量率）

単位：μSv/h

地下1階



地下2階



調査結果（概要）

- 固体廃棄物貯蔵庫の内部の線量率は0.3 ~ 30 $\mu\text{Sv/h}$ 程度であり、貯蔵庫周辺の線量率と比較しても同等あるいはそれ以下であった。
- ドラム缶の収納物は、コンクリート片等をビニール袋に収納したものや、金属配管・鋼材等の非浮遊性の放射性物質であり、蓋が開いているドラム缶内から放射性物質が飛散することは無い。また、空気中の放射性物質を分析した結果、6棟地上1階でCs-137がわずかに検出（ $9.5 \times 10^{-6} \text{Bq/cm}^3$ ）された以外は検出限界値未満であり、Cs-137は外部からの影響と考えられる。
- 全棟で転倒しているドラム缶の割合は少なく（約0.7%）、転倒し蓋が開いているドラム缶は全体で32本確認された。
- 目視点検においては、建物には大きな損傷は確認されなかった。

| | | 保管量 (本相当) | 転倒数 |
|-----|------|--------------|-------|
| 第5棟 | 1階 | 約1,000 | 約40本 |
| 第6棟 | 1階 | 約12,000 | 約240本 |
| | 地下1階 | 約15,000 | 約440本 |
| | 地下2階 | 約14,000 | 約280本 |
| 第7棟 | 1階 | 約23,000 | 約60本 |
| | 地下1階 | 約20,000 | 約50本 |
| | 地下2階 | 約21,000 | 約20本 |
| 第8棟 | 1階 | 約27,000 | なし |
| | 地下1階 | 約21,000 | 約80本 |
| | 地下2階 | 約20,000 | 13本 |

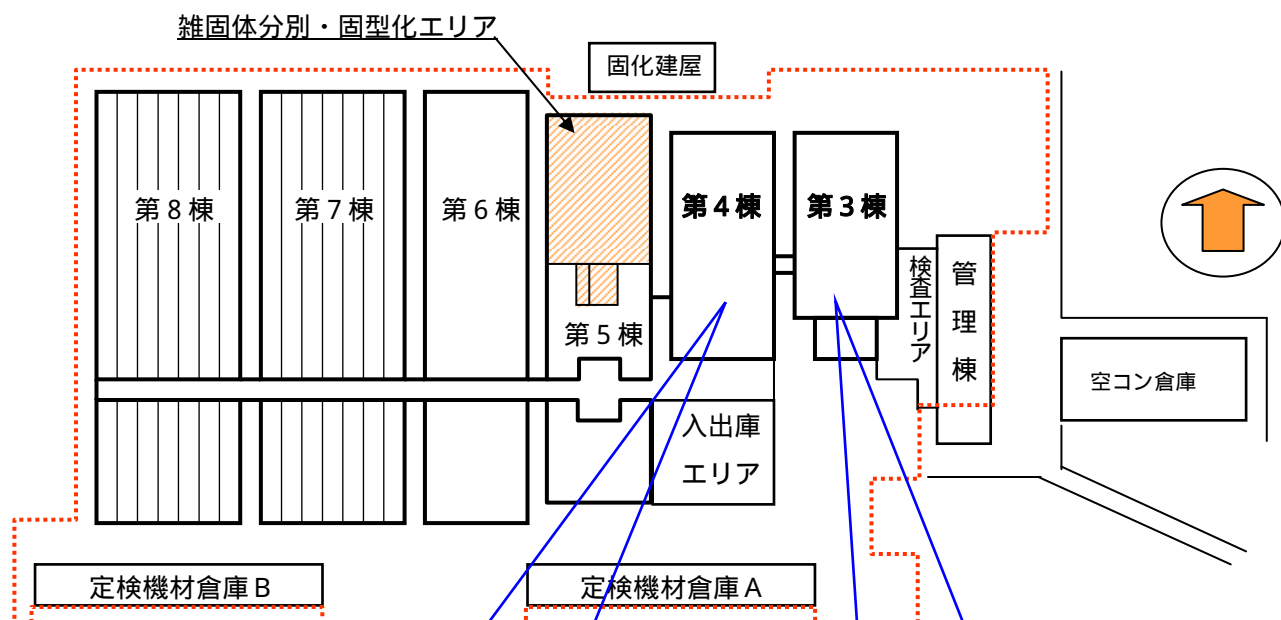
大型廃棄物

今後の予定

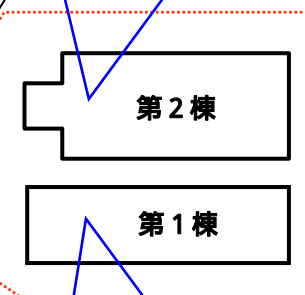
下記の事項について、できるだけ速やかに対応していく。

- 固体廃棄物貯蔵庫の復旧
- 開缶したドラム缶の復旧
- 転倒したドラム缶の整理整頓

参考：固体廃棄物貯蔵庫 第1～4棟の現状



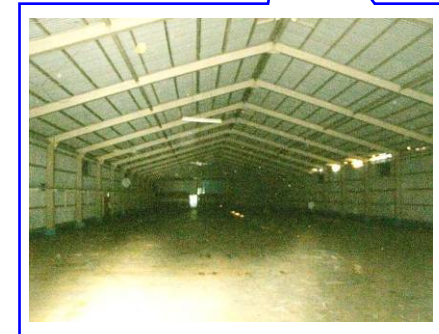
・ガレキコンテナを仮置き中



・集中環境施設等にて使用していたドラム缶を仮置き中



・使用済み保護衣等を仮置き中



・一部の大型廃棄物を保管中